第4章・ゆとり教育世代の意欲喚起術

あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

○○63

進路のミスマッチ多く

高校中退

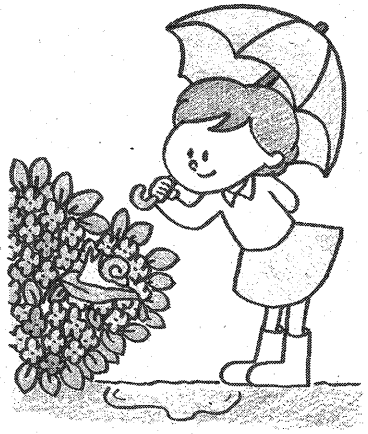
小、中からの関わり大切

私は7年前から、毎年8月に開催される「不登校フォーラムin八戸」のパネリストを担当しています。そのご縁で『ウイング高等学院』という通信制に在籍する高校生のサポート校を立ち上げました。何らかの事由により全日制高校で不登校になり、その後、通信制高校に転校し、何とか「高卒」を目指す子どもたちとその家庭を支援しています。

文科省によれば、平成20年度の高校中退者数は青森県内だけでも639人に上りました。中退事由のうち「経済的理由」はわずかに3・3％、「問題行動等」も5・1％です。それに対して「学校生活・学業不適応、進路変更」つまり〝進路のミスマッチ〟が全体の72％を占めています。これは中退者の数ですから、中退前の〝不登校〟となると、さらに多くの子どもたちとその家庭が、悩み苦しんでいるはずです。

なぜ、子どもたちは志願した高校を辞めてしまうのでしょうか。子ども本人の自由意思に任せたはずの進路決定だったのではないでしょうか。私は、小、中学校からの学習・進路指導の在り方、特に大人の関わり方が大切であると感じています。

先日、「無事進級したのに4月に4日通っただけで、全く登校しなくなった」と高2の男子の母親から相談の電話がありました。私と話しました。母親は「はい、ありがとうございます。誰か信頼できる大人にお願いしたかったので…」と涙声になっていました。

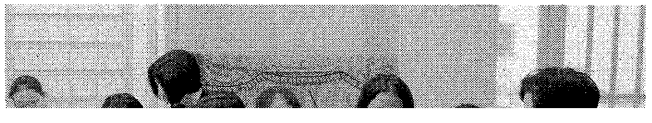


by yoriko

ゆとり教育世代の子どもたちは自由な時代に生きています。しかし、幼稚園から小、中、高、大学まで〝不登校〟にもがき苦しんでいる方々がいます。家庭は学校に助けを求め、学校は家庭の問題には踏み込めず、カウンセラーを紹介します。私はかねがね不登校の相談を担当して感じていることがあります。それは子どもたちが、「親を悲しませたくはない」「将来は独立して活躍したい」という共通の思いを抱いているという点です。

物質が豊かになると心の喪失が生まれます。21世紀、子どもたちに与えられた自由は、便利、安心に姿を変えて、意欲をむしばんでいるのかもしれません。子育て、教育に大人の覚悟が求められます。

（畑山篤＝志学塾塾長）



茶道

杉並

伝統

子ど

現代生

文化に触

かし、将

は日本固

していっ

いから、

取り組み

今年か

東京都杉

ラックが

ンドや屋

たたずま

や10畳の

統文化に

た。

「発達段

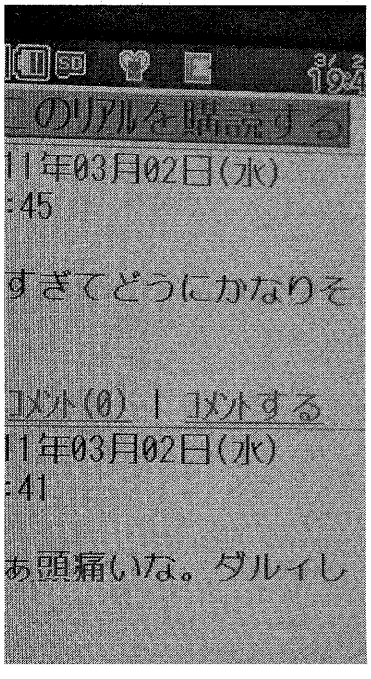
ちが伝統

え

教育

親も知らないプロフ 子どもとケータイ ⑦

関東地方の私立中3年のユキは、彼氏と一緒に携帯を見ている時に、広告から

もには、不適切と思われる広告も少なくない。

子どもに人気のプロフ